

東京大学の情報システム戦略

情報システム戦略会議

[情報システム戦略の基本方針]

東京大学では「大学憲章」において、“世界の東京大学”として世界最高水準の教育・研究を維持・発展させることを目的とし、「行動シナリオ」の運営基本方針として“森を動かす。世界を担う知の拠点へ”を謳っています。東京大学には国民から付託された知の資源を最大限に活用し、社会各層と幅広く手を携えながら未来の社会に対する公共的な責任を担っていく責務があり、濱田総長はその実現に向けた取組みとして「行動シナリオ」を作りました。特に、この「行動シナリオ」冒頭の行動ビジョンの中では、これからの東京大学が目指すべき姿、基本的な経営方針について示しています。

情報システム戦略会議では、東京大学情報システム戦略を、この「大学憲章」、「行動シナリオ」を実現するために必要な教育・研究資源の要素であるデータ、インフラ、サービス、人的リソース、セキュリティ等を含む情報システムを有効に活用し、経営資源として活用していくための計画として位置づけました。

東日本大震災によって生じた電力危機は大学の責務である教育・研究活動を脅かす事態となっています。この状況は今後、長期間にわたり大学活動に影響すると想定されています。そのため、危機的な状況においても情報システムが、安定した大学の教育・研究活動と経営戦略の基盤となり続けるため、基本方針として、次のとおり定義することとしました。

「教育・研究の基盤となる効率的で持続的な情報システムの実現」

この「教育・研究の基盤となる効率的で持続的な情報システムの実現」では、

- 効率化と持続性の実現のため、既存のインフラ、サービス、運営体制の見直しの推進
- 世界の学術のトップを目指す教育・研究のプラットフォームとしての情報インフラ及びサービスの提供
- 大学の知と社会の知の連環を活性化し、知の構造化を進めるうえで必要なコミュニケーション環境の提供
- 教育・研究を支援する業務をスリム、スマート、スピーディに実現する情報環境の提供
- 「強い個人」、「強い部局」、「強い本部」構造の実現に必要な大学全体における意思決定の迅速化を促進し、機動力ある経営の強化を支援する情報システムの提供

が必要であると私たちは考えます。

「東京大学情報システム戦略」の達成には、情報システムに関わる全ての部署、全ての担当者が連携することが必要です。最高情報責任者(CIO)・最高情報セキュリティ責任者(CISO)を中心として、既存の組織を見直し、シンプルな運営体制と役割を明確にすることで全学での「情報システム戦略」を推進します。

[情報システム戦略]

前述した戦略策定の基本方針に基づき、「大学憲章」と経営戦略「行動シナリオ」との整合性に留意しつつ、中期計画期間を一つの単位とし、東京大学が目指すべき情報システムのあり方を示す長期情報システム戦略(2期)、と「行動シナリオ」を達成するための第1期情報システム戦略(第2期中期目標・中期計画と同期して実現すべき具体的戦略)を次のとおり策定します。

長期情報システム戦略(2期12年)

- 教育・研究基盤
 - 多様な状況下でも効率的で持続的に教育・研究環境が利用できる情報プラットフォーム
 - ◇ エネルギー効率のよい情報システム・サービス環境の実現
 - ◇ 災害時でもリモートで研究活動・教育活動・業務活動を維持できる手段の確立
- 知の連環
 - 世界中のどこでも教育・研究環境が利用できる情報プラットフォーム
 - ◇ グローバルな教育・研究活動が必要とする柔軟でユニバーサルなコミュニケーション環境
 - ◇ 世界水準の研究・教育シーンでのICT技術活用・サービス化と成果のコンテンツ化の推進
- 経営基盤
 - 大学活動に必要なデータ活用・管理の実現
 - ◇ 大学が保有するデータの効率的な利用環境を整え、データ利活用を基本とした情報システムの実現
 - ◇ 業務継続性を有した安全な業務プロセスとデータ利用・管理体制の確立
- 組織・運営体制
 - 大学の情報人材を活用した運営
 - ◇ 大学全体で情報セキュリティを確保しつつ効率性を追求した情報システム業務体制の見直しと構築
 - ◇ 学生を含む大学ICT人材能力の活用

第1期情報システム戦略(平成23年から平成27年度)

- 第1期の目指す教育・研究基盤
 - 教育・研究基盤としての効率化と持続性の検討
仮想化技術の活用と集約化を考慮し大学全体としてエネルギー効率のよいサーバ・システム環境を整備する。
 - 大学全体でのICT環境の見直しとソフトウェア・ネットワーク環境の標準化
大学の教育・研究環境で必要な情報システムの機能を調査・検討し、情報サービスとしての実現を目指す。大学全体のICT環境の状況と求められる姿を検討し、東京大学が求めるICT基盤としての標準化を進める。
- 第1期内に達成する知の連環
 - 大学全体での認証サービスの提供と既存サービスの一元化による利便性向上
共通IDを核としたユーザ管理を行い認証の集約化を行う。ICカード等(共通ID)を活用した既存サービスの融合を行い、ユーザの利便性を拡充する。
 - IP電話技術の導入と携帯電話の活用によるコミュニケーション環境の充実
既存のコミュニケーション環境を拡張し、グローバルな大学活動に対応する環境にむけたプランを策定し、充実化に着手する。
- 第1期内に達成する経営基盤
 - 大学に必要なデータ項目を見据えた事務システムによる業務分析と見直しプランの策定
大学事務システムの融合化を既成の業務状況の分析に基づき行い、大学に必要なデータ項目と効率的な収集・提供を達成するための具体的な計画の策定と整備に着手する。
 - 大学全体での業務継続性とセキュリティ管理体制の確立
全体の業務プロセスを考慮した業務継続計画の策定とセキュリティポリシーの見直し、安全管理体制を構築する。
- 第1期内に達成する組織・運営体制
 - CIO・CISOを中心とした、シンプルでスピーディな情報システム業務と情報セキュリティの一層の整備を実現する運営体制の検討と連携による業務構築の推進
大学方針の一つである効率的で効果的なICT環境実現のため、情報システム本部、情報基盤センター、部局の情報システム担当者の組織化を行うなど、既存組織の見直しや連携を強化し、大学全体で統率のとれた情報システム運営体制を構築する。
 - 学内ICT人材活用に向けた検討
高度な大学情報システム化のための人材開発と組織化について検討する。

第2期情報システム戦略(平成28年度から平成33年度)

- 第2期の目指す教育・研究基盤
 - グローバルな教育・研究ICT基盤環境(どこでもラボ)の実現
- 第2期の目指す知の連環
 - 必要なユーザ情報を活用した統合認証の実現
 - 様々なメディアを連携したユニファイドコミュニケーションの実現
- 第2期の目指す経営基盤
 - 事務システムの経営基盤化とデータフィードバック体制の確立
- 第2期の目指す組織・運営体制
 - 大学の情報システム運営体制の効率化
 - 学内 ICT 人材活用の定着